

取材日記

今回は日本で暮らす外国人とその家族に焦点を当て、取材へ行ってきました。そんな取材の一部を、お写真と共に伝えします 作成：事務局

特定非営利活動法人 エルファ (特集③より)



韓国の伝統的な仮面劇「タルチュム」の人形。「タルチュム」は2022年にユネスコ無形文化遺産に登録されている。

手話教室の様子 在日コリアンの方々の苦しみと、日本の罪に向き合い、日本人として何ができるかを考える機会になりました。向き合うのはつらいけれど向き合って、同じ人として向かい合って話し合うことの大切さを学びました。

特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと (特集④より)



DO-YAの様子

いくつかのパークの図書館～ふくろうの森～

学習支援をしているとのことでしたが、「支援」という感じではなく対等に学び合うという感じで、とても良い雰囲気だなと思いました。こうして、ミッションである「境界を編みなおす」を実行しているんだなと思いました。

Minami こども教室実行委員会（特集④より）



中高生部会学習の様子



小学生部会学習の様子

実行委員会やボランティアのみなさまと、子どもたちが家族のようでした。隣に座る、家まで送る、一見些細なことが、子どもたちの「心の居場所」を作ることに繋がるのだと学びました。

社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会（総論①より）



ひきこもりの人や大学生たちで描いた壁画

定年退職後の男性が多く活動されていて、とても安定している感じがしました。長年、仕事で培ったものを活かせるこのような場がもっと増えたらいいなと思いました。



ミーティングの様子

生活協同組合 コープさっぽろ (特集②より)



「仕組み化がすごい」の一言でした。生協でも、外国人の仲間を迎え入れている所が増えていますが、この仕組みを全国の生協へ広げて欲しいなと思いました。



入った瞬間「だし」の香りに包まれて、ご飯が欲しくなりました。一瞬でお腹が空くほどに、日本人にとって「だし」はなくてはならない存在なんだと実感しました。

かね七株式会社（くらしと協同をたずねてより）



←鮮度を保てる
巨大な冷凍倉庫

「だし」になる前の新鮮な魚↓

